

「東南アジア・マグロ缶詰産業の発展過程—多国籍企業論・開発経済論の視点から—」

〔概要〕

東南アジアにおいて輸出向けマグロ缶詰の主たる生産地はタイ、フィリピン、インドネシアであるが、これらの国々において、調理済みマグロ缶詰が新製品として開発され、国内向け、先進国向け、中国向けにセグメント化されて販路開拓されている。商品開発と国内生産、輸出の軌跡を比較生産費説、プロダクトサイクル理論や雁行形態発展論によって説明した。2004年7月、IIFET(International Institution of Fishery Economics and Trade) 2004 Japan でポスター報告した内容に加筆修正したもの。